

団体	Sayama Second Stage
----	---------------------

## (1) 概要

日時	2017年 9月22日 18時30～20時30分（入曽地区編）
場所	入曽公民館 ホール
参加人数	36名+運営者 名(講師 1名 事務局 名 スリーエス 2名)
講師	合同会社 Active Learners 共同代表 米元 洋次
テーマ ゴール	自ら考え、動くことができる“協働できる地区”に向けた一歩 「地区の未来を見据えたとき、今、取り組むべき課題が見えている」
流れ	自己紹介アイスブレイク⇒レクチャー「狭山市の今から未来を考える」⇒個人ワーク「私」が考えた今検討しなければならない地区の課題⇒グループワーク「課題共有・マトリックス分類」⇒ぐるぐるタイム（他テーブルの課題をチェック）「全体共有」⇒グループワーク「新たに気付いた課題など」⇒ふりかえり

## (2) 報告事項

### グループワークから拾った意見（箇条書き）

○・・・地区住民で解決 ●・・・外部の協力が必要

#### 【1. 入曽地区】

〈すぐ解決すべき〉

- 近所との付き合いが少ない
- 若者の地域活動・自治会活動への参加率がよくない
- 子育て世代が孤立している、多世代交流できるように
- 高齢者だけの世帯が多い、高齢者が引きこもる、高齢者の交流を図れる場所が少ない
- 地域交流の場がない、文化施設が少ない
- 茶畑や緑の保全と憩いの場づくり
- イベントが少ない
- シンボルとなる場所がない
- 狭山市の中でも知られていない、入曽の顔したまちづくりが必要
- 郷土の文化財、伝統芸能に対する関心のなさ
- 地域に対する愛着
- 地域の担い手が同じ人ばかりになる
- 入曽地区を考える会（拠点をつくる）
- 入曽駅前／歩道にベンチがほしい
- ごみが捨てられない
- ゲーム三昧な子どもが多い
  
- 食堂・コンビニ・商店・娯楽の場が少ない
- 駅前がさみしい
- 市民が利用できる場所が欲しい
- 小学校跡地を地域活性化に活かす
- 子育てしやすい環境には不十分

- 子どもたちが外で自由に遊べない、広い公園が少ない
- 地域包括支援センターの構築
- 交通が不便、渋滞がひどい
- 駅からの公共交通が少ない、移動の手段が少ない
- 自転車が通る道、通学路が狭い
- 夜道が暗い
- 子どもたちが少ない
- 空き家の増加
- 市民によく聴いて開発してほしい
- ベッドタウン化しているので地域に興味がない
- まちのPRが足りない
- まちの特徴がない
- 不老川が氾濫する、水害から守れるまちにする
- 入曽駅周辺の排水能力が悪い

〈ゆくゆく解決すべき〉

- 歩いていけるところに公園を
  - 子どもを連れて遊べる場所がない、安心して遊べる空間が少ない
  - 子育て支援がない、子どもをもつ世帯が減っている
  - 若い人が住みよい地域であって欲しい
  - いざという時に助けを求められる関係性、助けるべき人が確定していない
  - 買い物難民が発生している
  - 日常生活に必要な交通体系の構築
  - 中高年の健康づくり
  - 子どもの学力向上
  - 空き家が多い
  - 個人情報保護が足かせになっている
  - 学生が通り過ぎている
  - 自治会の行く末が心配
- 
- 駅前をひとが集まる場所にしたい
  - おいしい食事、狭山茶を飲める場所をつくる
  - 入曽駅を中心としたまちの計画が必要
  - 道路が昔のままの狭い道路
  - 道路を歩きやすくする、歩道がない
  - 子どもたちが思いっきり遊べる公園、のんびりすごせる公園をつくる
  - 子育て施設が不足している
  - 大きい病院が遠い
  - 文化的施設が少ない
  - 水野地区から所沢にかけての雑木林が減少しつつある
  - 水野の新田開発地区を残したい
  - 基地の音がうるさい
  - 正社員として働く若者が減っている、会社がない

- 独居老人が増えている
- コミュニティバスを増やす
- 災害に強いまちづくり
- 買い物難民が増えそう

## <アンケート>

### 1. 今回の意見交換会に参加してどう思いましたか？

多くの方の入曾に対する想いや視点、考えを聞けてとてもよかった。

根本的な課題に気付くことができた。

同じ入曾地区に住んでいる仲間と交流し、同じ方向性を向いて課題を語り合えたことが嬉しく、大変有意義な時間となった。

いろいろな想いを聞くことができてよかった

大変有意義であった。何回もこういう集まりがあるといい。

自分の中でまとまりなく感じていた課題が整理できた。

自分が考えていなかったことが非常に多く、話を聞くことで視野が広がった。

いつもとは違うメンバーで入曾地区の課題について話し合えたことがよかった。

### 2. あなたの住んでいる地区の課題は何だと思えますか？

コミュニティはできているのだが、一部の人が入れていなかったり、繋がりが弱いことが課題だと思った。

子どもの学力、遊び場の不足

地域の繋がり、コミュニケーション力、高齢化

人と人との繋がり

地域に高齢者の交流の場が少ない、お店が少ない

自由に行動できる利便性

高齢者が安心して安全に笑顔で暮らすことができる地域づくり

若者の減少、高齢化→入曾駅周辺の開発・整理が必要

入曾駅周辺の整備、入間川小・入間川中跡地の活用

子どもの遊び場が少ない

不老側の氾濫

道路が狭い、空き家問題

若者の地域活動への参加が少ない

若者を呼び込むための施策

### 3. 他のグループの課題についてどう思いましたか？

大きな違いはなく、課題として感じていることは同じだと感じた。

同じようなものが多かったと思う。少し視点を変えて解決の方法を考えてみるという言葉が印象に残った。

グループによりいろいろな意見や考えがあった。

自分達で解決できる課題が多かったが、他グループは外部による協力が必要なものが多かった。

子育て環境や高齢者の独居問題など、様々なことに問題意識を持っていて、たくさんの気づきがあった。

他のグループも同じような課題が多かった。まずは、情報の共有が必要であると思う。

「入曾の顔が欲しい」という課題があったが、入曾の顔は「狭山の昭和」として懐かしさを感じるまちづくりをしたらよいと思う。

#### 4.課題の解決に向けて何が必要だと思いますか？

今あるものをいかに活かすか

郷土愛、人類愛

つながり、隣同士のつながり、公とのつながり。もっとつながりを強くすることが必要だと思う。

地域の方に地域の現状を知ってもらう。地域の中で自分のできることをする。

自分のこととして捉えること

できる・できないではなく夢が持てる施策

住民が地域と他の住民に関心を持つこと

いろいろな立場の方との意見交換

問題意識や思っていることの方角性が同じなのだから、情報がきちんと伝われば理解者、協力者も増える。

情報交換をする機会を作り、仲間作りをする。

誰かがやらなければならないなら、その「誰か」になろうと思う気持ちを持てる人が多くいるといい。

各自治会の連携

地域住民の問題意識を高める

近所とのコミュニケーション

市民、行政等、みんなで考えることが必要

協働の必要性を市民のみならず、市職員全員が認識すること

市民と行政との対話が大切、市民の声をよく聞いて欲しい

行政だけではなく自分達が考え行動すること

このような意見交換ができる場

行政によるハード面の整備、協働によるソフト面の改善、改革。

#### 5.課題の解決にむけてあなたは何ができると思いますか？

人的交流や拠点作りで何かできないかと思った

子育てしやすい地域にするためにはどうしたらよいか考えていきたい

歌声（シンボル）の響く町になるように活動をする

他の団体と声掛け協力していきたい

地域の声を可能な限りまちづくりに反映させていくこと

色々な市民の方と話し合い考えていく

入曽地区の課題を知人など、周りの人にPRしていくこと

地域イベントへの参加

理屈をこねるのではなく動くこと

仲間作りのバックアップ

知恵を出す、体を動かす、人と繋がる

みんなに声を掛けて結集すること。「入曽わくわくする会」等を設立したい。

地域の方への声掛け、見守り